２０２３（令和５）年８月２４日（木）～２６日（土）
白馬岳（２９３２ｍ）

２日目：８月２５日金曜日　晴れ　　**レポート担当：吉松**

昨夜は少し雨が降ったようです。猿倉荘の屋根を打つ雨音が時折聞こえていました。
しかし朝にはその雨もすっかり上がっていて、今日も良い登山日和になりました。ただ、午後から雨になるかもしれないとの予報でしたので、出発は登山の原則通り早立ちをすることにしました。

登山相談所での情報では、雪渓が短くなっているとのことでした。楽しみな大雪渓がどうなっているのか、一寸気になりました。
一方、中島さんが白馬山荘について面白い情報を仕入れていました。山荘では申込者３０名限りで、ビーフシチュー（@３０００円）を提供するというのです。中島さんはすっかりチャレンジするつもりになっています。果たして先着３０名に滑り込めるかどうか？　白馬岳にむかう登山者が皆競争相手に見え始めたのが、なんとも不思議でした。

４時には起床

５時からの朝食をとることになった。
宿泊客はたったの６人なので、一寸寂しい山小屋での朝食であった。

猿倉荘には６人しか泊まっていないはずなのに、５時過ぎくらいから山荘前のベンチはご覧のように登山客で賑わっていた。

どうやらマイカーで来た登山者たちのようであった。登山者は決して少なくない。

＊ここで突然、吉松のザックにトラブル発生・・・
朝食が終わって出発準備をしているときに、突然ザックの不具合が発生した。右肩のショルダーの付け根が切れてしまったのだ。まさかこんなことが起こるのかと、流石に愕然とした。
今日、明日の登山行に耐えられるのかどうかが心配であった。

このザックは購入してから１０年以上経っている。長年の使用で生地が疲労して、切れてしまったのだろう。とりあえず持参していた靴紐を利用して、右ショルダーの固定を試みることにした。

何とも心もとないが、２日間の登山行に耐えてくれさえすれば良いと思った。

靴紐で応急処置をした吉松のザック

５時３０分

猿倉荘玄関前で

猿倉登山口から白馬岳に向かって出発

雲の為に判然とはしないが、左奥のとがった山が白馬岳か？

白馬尻小屋までの一時間ほどの登山道は歩きやすい。時々白馬岳が望める。

色々な花実が楽しめた。

６時５０分

白馬尻小屋に到着

白馬尻小屋はご覧の通り、解体されていた。

白馬岳のハイシーズン時期に組み立てられるらしいのだが、他の登山客に聞いたところ、コロナ禍で利用客も減り今年は解体されたままだとのこと。

「ようこそ大雪渓へ」と大書された石の前で記念撮影

ここで、大休止を取ることにした。

この辺りから大雪渓が見られるはずなのだが、上の先の方までそれらしきものが見られない。

昨日、猿倉荘の登山相談所で教えてくれた、「今夏は雪渓が短くなっている」ということはこのことか？
冬の降雪の少なさと、夏の猛暑が影響しているとのことだが、このまま地球温暖化が進むようなら、白馬岳大雪渓の先々はどうなることやら？

７時１５分

雪渓に下りられる場所を目指して出発

３０分ほど歩くと、やっと雪渓が現れてきた。

雪渓から岩が大きく顔を出していて、その下を雪解け水が勢いよく流れている。

８時１０分

ようやく雪渓に足を踏み入れても良い場所に到着した。
雪上に赤い線のマークが付いているところが、比較的安全に歩けるところである。

早速アイゼンを装着し、ヘルメットをかぶることにした。

落石に気を付けながら、雪渓上を歩いた時間は１０数分
途中、雪渓の割れ目もあって気持ちの良いものではなかったが、岩場を歩くよりはよほど歩きやすかった。

あっという間に雪渓上を歩く楽しみは終わってしまった。

【その後の大雪渓】
我々が雪渓を歩いたのは８月２５日
２日後の２７日１５時に、白馬村観光局（長野県山岳総合センター）より**白馬大雪渓通行止め**の正式発表が出された。我々２人は間一髪で大雪渓ルートを登ってきたことになる。
万一大雪渓ルートを使えないと・・・「白馬鑓温泉を通過するルート」か、「栂池から白馬大池を通るルート」を利用して白馬岳を目指すことになり、大幅な計画変更を余儀なくされる可能性があった。
たった、１０数分しか雪渓上は歩かなかったが、ラッキーだったとしよう。

雪渓を外れてから**緊急避難小屋**までは２時間強。岩場の連続で、結構エネルギーを消耗した。

ゴロゴロした岩の間に咲く花々

１１時１８分　**緊急避難小屋**に到着

避難小屋を過ぎると雪渓から続いていたゴロゴロ岩は少なくなってきて、歩きやすくなってきた。
先にはお花畑が広がってきた。

１２時少し前
標高２５５３ｍの岩陰で一休み

白馬岳頂上宿舎が見え始めた。

既に６時間を歩いていて、２人とも少々ばて気味になってきた。
しかし、いつまでも休んでいるわけにもいかず、
まずは**白馬岳頂上宿舎**を目標に登り始めた。

壊れかけた木道を登る。

頂上宿舎が目の前に現れた。

１２時４０分　**村営白馬岳頂上宿舎**に到着

「山と高原地図」には〒のマークが付いている。この宿舎は、山の郵便やさんが開設されていることでも有名。テント場も広い。

ここからは、雲がかかった**白馬山荘**が見えてきた。今日の宿泊場所だ。

左右に翼を広げたような白馬山荘は日本一の収容人数（８００名）を誇る。
雲上のレストラン**「スカイプラザ白馬」**も売り物になっている。

標高２８３２ｍ

約２０分で到着だ。

白馬山荘までは、ゆっくりとした傾斜の登山道が整備されている。

突然、山荘に向かう登山道に現れた可憐な**「コマクサ」**

１３時１３分　**白馬山荘**に到着

日本一を自称するだけあって、流石に敷地が広く建物も大きい。

写真左；白馬山荘受付
写真下；３階建ての宿泊及び食堂の建物

受付の建物前にあるレストラン**「スカイプラザ白馬」**

レストラン「スカイプラザ白馬」

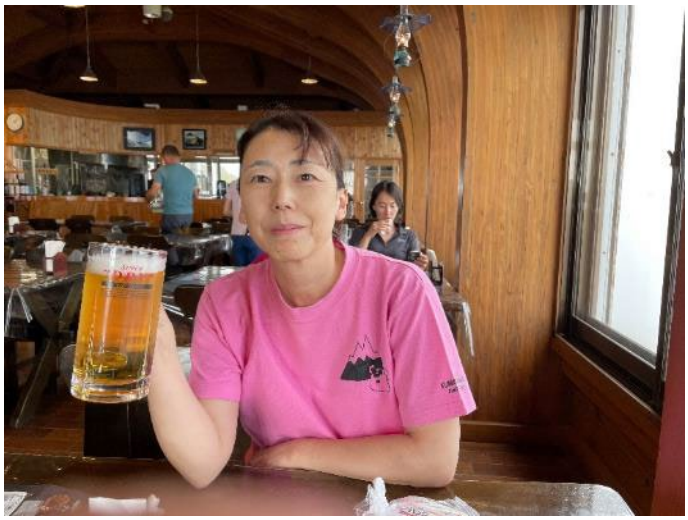
山頂にあるレストランとは思えないほどの広さと豪華さに目を見張った。

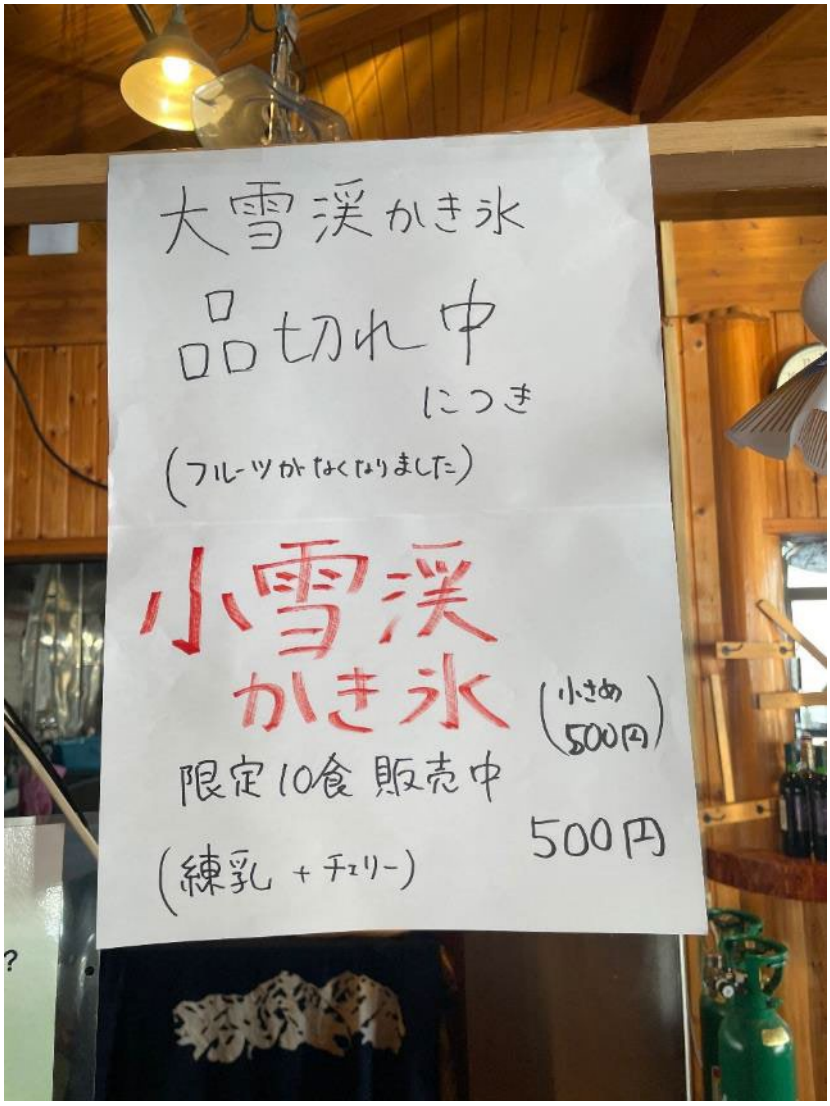
宿泊費は少々高く、１泊２食で@１５０００円
３０名限定「ビーフシチュー」は、十分申し込みが可能であるとのこと。早速申し込むことにした。
１７時からスカイプラザ白馬で食べることが出来る。

今日の我々の部屋は、３階に指定された。

３階には２畳毎一区切りの部屋が蚕棚のように並んでいた。
雑魚寝のたこ部屋風ではないので、反って居心地が良いかも知れない。

部屋で着替えや片付けを済ませてから、「スカイプラザ白馬」へ繰り出した。
やっとありつけた生ビールが本当にうまかった。
生ビール一杯では足らず、５００ｍｌの缶ビールをそれぞれ頼んで更にグビグビ！！





スカイプラザ白馬では、「大雪渓かき氷」「小雪渓かき氷」も販売していた。

大雪渓、小雪渓はかき氷に載せてあるフルーツ類の違いらしい。

雪渓の氷をそのまま使っているわけでは無い（すかさず中島さんが、店員に確認）。

「限定１０食販売中」は怪しい！
我々が見ていた限りでも、１０食以上売れていた。
中々商売上手なレストランと見た。

ビールを楽しんだ後は、１７時からの「ビーフシチュー」を楽しみに暫し部屋で休憩

そもそも、中島さんが「白馬山荘」のビーフシチューを知ったきっかけは、YouTube で「かほの登山日記」を見たからだと言う。

廊下で「かほの登山日記」の色紙を発見

彼女の番組の中で白馬山荘の「ビーフシチュー」が紹介されて、中島さんは俄然興味と食指が動いたらしい。

１７時に、いそいそと「スカイプラザ白馬へ」

なんと、席が用意されていた。

周囲の山々が見渡せる素晴らしい席だ。
３０名限定のビーフシチューを注文したことは、ただ事ではない予感がした。

２８３２ｍの山荘で供されたビーフシチュー、そして食後のケーキとコーヒー

各自で食堂に取りに行くのではないのだ。
ちゃんとウェイターが運んできてくれる。

赤ワインで乾杯

＊撮影してくれたウェイターが、「あら、素敵！！」と感嘆の声を上げてくれた。
しかも、何回も！！

＊３０名様限定ビーフシチューのこと・・・

３０名様限定販売のビーフシチューと聞いていたので、白馬岳に向かう登山者がみんな競争相手だと思っていたのだが・・・
本日、ビーフシチュー注文のお客は我々２人と、あと１人いただけだった。少々拍子抜けしてしまった。
それでも、味よし、ウェイトレスの対応も満足。白ワインまで頼んでしまった。

食事時間は１８時３０分まで

山影に日が沈む時刻まで、腰を落ち着けて食事を楽しませてくれた。
キャンドルサービスまであるのだ！

登山は大変だったけれど、思いがけない山での美味しい食事を堪能して部屋に戻った。

１９時ごろの山入端（やまのは）

明日も良い天気に恵まれそうだ。

　あまり雪渓は大きくはありませんでしたが、通行中止になる前に辛くも雪上を歩くことが出来たことはラッキーでした。一方で、山小屋でビーフシチューのご馳走にありつけたのも、珍しい体験になりました。
（どうやら中島さんは、雪上歩きよりもビーフシチューの方が感動的だったようです。）

　もう少し涼しいかと思っていましたが、結構気温は高く、その分だけ体力を消耗しました。それでも登りきると、周りの山々の景色やら夕日に感動して疲れも飛んでいきました。

　明日の下りは、岩ゴロゴロと聞いていました。ゆっくり寝て疲れをとって、安全下山に徹しようと思いました。